

日本酒で乾杯推進会議 「石川大会」開く

北陸新幹線開業で湧く加賀百万石の地を舞台に、10回目の地方大会



第3部サケマルシェ合同アトラクションのオープニング。金沢出身の女優・田中美里さん(写真左)の発声で、会場一斉「日本酒で乾杯！」

日本文化と日本酒のルネサンスを旗印に活動を続ける日本酒で乾杯推進会議の石川大会が10月24日の午後、金沢市の石川県政記念「しいのき迎賓館」で開催されました(主催＝日本酒で乾杯推進会議、日本酒で乾杯推進会議石川大会実行委員会、石川県酒造組合連合会／共催＝サケマルシェ実行委員会／後援＝日本酒造組合中央会、金沢国税局、石川県ほか)。北陸新幹線の開業で盛り上がる加賀百万石の地を舞台に繰り広げられた、乾杯運動の一日をレポートします。



第1部は、編集工学研究所所長・松岡正剛氏の基調講演と、「酒と食文化」をテーマにしたパネルディスカッション



第2部は、地酒パーティ



金沢芸妓のあでやかな舞



第3部・サケマルシェ合同アトラクションのにぎわい

サケマルシェとタイアップ。3部構成の企画で乾杯パワー全開



しいのき迎賓館



日本人に日本を取り戻すために、日本酒で乾杯！―「日本酒で乾杯運動」は、乾杯という行為を通じて日本の伝統文化をもう一度見つけ直そうという、業界総力のカルチャー・ムーブメント。

運動の中核となる「日本酒で乾杯推進会議」では毎年秋、東京での総会・フォーラムと並んで県単位の地方大会を開催しており、地元の酒造組合と協力して「日本酒で乾杯」の全国普及に取り組んでいます。

その10回目となるのが今回の石川大会。「地酒で乾杯いしかわ会議」の設立(平成25年10月)、「いしかわの酒による乾杯を推進する条例」の制定(平成26年2月)と、意欲的に乾杯運動を進める石川県は、地方大会の開催地として申し分のない舞台。しかも今回は、しいのき迎賓館で同時開催中だった「石川の地酒と美食の祭典・サケマルシェ」(10月24、25日)とタイアップ。両イベントの参加者が一体となった「サケマルシェ合同アトラクション」(17:00～18:30)を、敷地内のしいのき迎賓館広場で開催したほか、第1部「基調講演・パネルディスカッション」(13:00～15:50)、第2部「地酒パーティ」(16:00～17:00)という3部構成のプログラムで、乾杯パワー全開の地方大会を繰り広げました。



中村実行委員長

■ 大会のオープニングに当たって主催者挨拶を述べた中村太郎実行委員長(石川県酒造組合連合会会長)。「酒を愛する地元の姿、日本酒で乾杯の意義を伝えるために、この会を開催する。今日一日、石川地酒のスピリッツをぜひ体感してください」



石毛代表

■ 続いて、日本酒で乾杯推進会議の石毛直道代表(国立民族学博物館名誉教授)が挨拶。「日本酒で乾杯運動は消費拡大の運動ではない。日本酒は日本文化そのものであり、乾杯することで、日本文化に思いを馳せる文化運動です」



「サケマルシェ」の様様。県内28の蔵元も参加して大盛況でした。参加人数は10月24日1万2千人、25日1万3千人の合計2万5千人。



こんな関連イベントも(石川の22蔵元と22人の漫画家の日本酒ラベル展)

★ 第1部 ★ 松岡正剛氏が基調講演。「酒と食文化」をテーマにパネル討論



第1部は、基調講演とパネル討論の2本立て。基調講演は、編集者、著述家、日本文化研究者と多彩な活動を続ける松岡正剛氏が、「酒ー祝いと誓い」の題で日本文化再生への道を論じたもの。この中で同氏は「日本の文化力が低下した原因は様式の衰退。古来日本人は大陸からコードを輸入して独自のモードを作ってきた。漢字から仮名を、酒精から日本酒文化を作り出したのも同じこと」「西洋から輸入した西洋の型だけでなく、日本のモードとして取り込んでいく必要がある」などとして、日本

文化、日本酒文化の再生には新しいモードの創造が求められることを指摘しました。
続くパネルディスカッションでは、民俗学者の神崎宣武氏をコーディネーターに、金沢出身の女優・田中美里氏、地酒で乾杯いしかわ会議幹事長の福光松太郎氏、日本酒で乾杯推進会議運営委員長の西村隆治氏の3人が、「酒と食文化」をテーマに、金沢の酒と食、乾杯運動の意義、日本酒の可能性などをめぐって、興味深いやり取りを交わしました。(第1部の参加人数は約190名)



西村隆治氏

「今年10月1日の日本酒の日に、全国一斉乾杯を初めて実施。国内外で4万7千人もの人が参加しました。これは今後も行っていきたい。それと、日本酒の輸出が増えているので、乾杯運動も今後は国際化の道を検討していく必要があると考えています」



田中美里氏

「東京での生活を始めてから、金沢の食べものが懐かしくなって、本当に豊かな土地に育ったんだなって実感しました。今日のお話を聞いて、もっと自分の生まれた土地のことを知りたくなりましたし、知ったことは若い世代に伝えていきたいと思いました」



福光松太郎氏

「松岡先生のお話のとおり、日本酒の新しいモードを確立することは重要課題。金沢は酒、料理、おもてなしの豊かな文化を持っているが、正座できない人が多い今、和風だけに固執せず、新しいモードを確立して、それを国際化にも繋げていく必要があります」



神崎宣武氏

「国際化を含め、日本酒の可能性はまだまだ広がっている。日本酒を愛して活動が続けているが、日本酒で乾杯運動は入り口にすぎない。各方面と総合的に連携しながら、日本文化のルネッサンスを実現するために、我々のやるべきことはまだいっぱいある」

🍁 第2部 ★ 石川の地酒と料理を囲んで、和やかに「地酒パーティ」



地酒で乾杯いしかわ会議の飛田会長（右の写真）の発声で乾杯。中央右寄りには、石川県の若本知事



しいのき迎賓館 2 階のレストラン・ボールボキューズに会場を移して開かれた第 2 部「地酒パーティ」には、約 220 人が参加。日本酒造組合中央会の篠原会長の開会挨拶、谷本正憲石川県知事、山野之義金沢市長の歓迎の言葉に続き、地酒で乾杯いしかわ会議の飛田秀一会長の発声で全員一緒に乾杯の杯を掲げ、宴の幕開け。会場には、金沢芸妓の艶やかな姿も混じって、ひとさわ華やいだ雰囲気の中、参加者は石川の地酒と豪華な料理を囲んで、懇談のひと時をすごしました。



■ 「日本人ならく乾杯は日本酒で」。これを新しい日本の文化として育てていきたい」（中央会・篠原会長）



■ 「この大会が日本酒、そして日本文化ルネサンスの足がかりとなることを期待しています」（谷本石川県知事）



■ 金沢は食文化の街。市の「食文化の継承条例」で、金沢の食文化を発信していく」（山野金沢市長）



金沢伝統のおもてなし



田中美里さんを囲んで



「みんなで乾杯しよう」「石川の地酒でカンパニー」

来年の大会は広島開催。広島県酒造組合の三宅会長（中央）が挨拶



第3部 ★ パワフルー斉乾杯！サケマルシェとの合同アトラクション



この日のメイン・イベント「サケマルシェ」とタイアップした合同アトラクションは 17 時から、石川大会の全参加者と、1 万人を超えるサケマルシェの来場者が渾然一体となったパワフルー斉乾杯でスタート(1 頁の写真)。参加者は、県内 28 の蔵元から出品された約 100 種類の銘酒を飲み比べたり、寿しやおでんなど、出店した 30 店の料理を特設テントに持ち帰ってお酒との相性を確かめたり。参加者の中には若者のグループも多く、秋深まる金沢の夜空に澁刺とした乾杯の声を響かせていました。



乾杯に先立って、金沢芸妓が美しい舞姿を披露



乾杯の発声を行った田中美里さんが、元気いっぱい、会場に呼びかけると、会場からも元気いっぱいの返答

